

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

論題(和文)	文学の語り方 戦争とアメリカ文学
Title(English)	
著者(和文)	上西哲雄
Authors(English)	UENISHI Tetsuo
出典(和文)	上智大学英文学会第40回大会プログラム, , ,
Citation(English)	, , ,
発行日 / Pub. date	2015, 10

# 上智大学英文学会

## 第40回大会プログラム

と き 2015年10月24日 (土)

ところ 上智大学7号館14階特別会議室

### I 2:00 総会

開会の辞

会長・上智大学英文学科教授 永富 友海

活動報告・会計報告

事務局

### II 研究発表

2:10 「*Incidents in the Life of a Slave Girl* における〈真の女性性〉批判」

上智大学大学院博士前期課程1年 石山ひかる

司会 上智大学大学院博士後期課程2年 名和 玲

2:50 「ヴィンケルマンはいかに古代ギリシアを論じたか

—『古代美術史』における合理的歴史叙述のパラダイム」

米田 ローレンス正和 (帝京大学外国語学部助教)

司会 浦口 理麻 (東京学芸大学特任講師)

### III 3:45 講演とディスカッション

「文学の語り方—戦争とアメリカ文学」

講師 上西 哲雄 (東京工業大学教授)

コメンテーター ハーン小路 恭子 (上智大学英文学科助教)

司会・コメンテーター 飯野 友幸 (上智大学英文学科教授)

### IV 5:30 閉会の辞

大会準備委員長 飯野 友幸

### V 6:00 懇親会

上智紀尾井坂ビル5F会議室2

会費：4,000円 (大学院生・学部生は2,000円)

## 〈講演とディスカッション〉

### 「文学の語り方—戦争とアメリカ文学」

講師 上西 哲雄（東京工業大学教授）

コメンテーター ハーン小路 恭子（上智大学英文学科助教）

司会・コメンテーター 飯野 友幸（上智大学英文学科教授）

昨年は第一次世界大戦開戦 100 周年ということもあって、英米文学研究の世界では戦争をテーマにした企画が各地で行われた。戦争をアメリカ文学はどのように描いて来たのだろうか。アメリカ文学を手がかりに、文学がこのような大きな歴史的事件をどのように描くのかを検討することを通じて、文学を読む、あるいは文学を研究するということの意義について一緒に考えてみたい。

第一次世界大戦とアメリカ文学と言えば、Ernest Hemingway、William Faulkner、John Dos Passos、そして F. Scott Fitzgerald といった、いわゆるロスト・ジェネレーションと呼ばれる作家達が第一次世界大戦終了後に新しいアメリカ文学の主演として次々と登場したことが思い出される。中でも 1920 年代当時、最も人気のあったのは *The Great Gatsby* (1925) で有名な Fitzgerald である。ところが彼は主要な作品で、必ず戦争に言及するものの直接戦場を描くことは一切しなかった。デビュー作 *This Side of Paradise* (1920) は、主人公の少年期から青年期にかけて、つまりは戦前から戦後にかけての生を描いたものだが、戦争の期間だけが実質的にすっぽり抜け落ちている。ことさら省くのには理由があるのだろうか。

同じようなことは、アメリカ合衆国にとってひとつ前の重要な戦争である南北戦争と、南北戦争後つまり 19 世紀後半のアメリカ文学を代表する小説家 Mark Twain との関係の場合にも言える。代表作である *The Adventures of Tom Sawyer* (1876) や *Adventures of Huckleberry Finn* (1885) は南北戦争前の物語であり、長編小説としてはデビュー作の *The Gilded Age* (1873 共著) は戦後を舞台とする。南北戦争と重なる時代を舞台にしたものとしては、旅行記仕立の *Roughing It* (1872) があるが、戦争についてはごくごくわずかに言及するものの、物語そのものは、戦争が同時並行して行われていることすら感じさせない展開となっている。

この 2 人に共通しているのは、Fitzgerald は従軍するが戦場に送られる前に終戦となり、Twain は義勇軍に参加するが 2 週間程で逃亡してしまうというように、本格的な戦争体験が 2 人とも無い点だ。では見たことがないから書けないのだと言ってしまうかもしれないが、人間はそんなに単純なものではあるまい。ふたりにとって戦争とはそれぞれ何だったのか。個別具体的なひとりひとりの人間にはそれぞれ個別具体的な戦争があるはずだ。文学はそれを描き、文学研究はそれを解明する。こうした文学ならではの営みの例に分け入りながら、文学と文学研究の意義について一緒に考えたい。